

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成28年10月27日(2016.10.27)

【公開番号】特開2015-105316(P2015-105316A)

【公開日】平成27年6月8日(2015.6.8)

【年通号数】公開・登録公報2015-037

【出願番号】特願2013-247685(P2013-247685)

【国際特許分類】

C 08 F 293/00 (2006.01)

C 08 L 53/00 (2006.01)

C 08 L 101/00 (2006.01)

C 08 G 63/91 (2006.01)

【F I】

C 08 F 293/00

C 08 L 53/00

C 08 L 101/00

C 08 G 63/91

【手続補正書】

【提出日】平成28年9月7日(2016.9.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

脂肪族ポリエステル部位、および芳香族ビニルモノマーを含むビニルモノマーの重合体であるビニルポリマー部位を有するブロックポリマーであって、

該ブロックポリマーが融点を持ち、

該脂肪族ポリエステル部位が側鎖にアルキル基および/またはアルケニル基を有することを特徴とするブロックポリマー。

【請求項2】

前記脂肪族ポリエステル部位が、

下記式(1)で示されるジカルボン酸またはそのアルキルエステル化物もしくは酸無水化物、

下記式(2)で示されるジオール、並びに

前記脂肪族ポリエステル部位に側鎖として炭素数1以上18以下のアルキル基および/もしくはアルケニル基を生成する下記(A)群より選択される少なくとも1種の化合物、の重合体である請求項1に記載のブロックポリマー。



[式中、mは、0以上14以下の整数を示す]



[式中、nは、2以上16以下の整数を示す]

(A)群

(脂肪族分岐モノアルコール；

脂肪族分岐モノカルボン酸、または該脂肪族分岐モノカルボン酸のアルキルエステル化物；

分岐アルカンジカルボン酸、または該分岐アルカンジカルボン酸のアルキルエステル化

物若しくは酸無水物；

分岐アルカンジオール；

分岐アルカンモノヒドロキシモノカルボン酸、または該分岐アルカンモノヒドロキシモノカルボン酸のラクトン化物）

【請求項3】

前記(A)群より選択される少なくとも1種の化合物の含有量が、前記脂肪族ポリエステル部位を生成する全モノマー中に、4モル%以上20モル%以下である請求項2に記載のブロックポリマー。

【請求項4】

前記ブロックポリマーの融点が、50以上95以下である請求項1～3のいずれか1項に記載のブロックポリマー。

【請求項5】

前記ブロックポリマーの前記脂肪族ポリエステル部位と前記ビニルポリマー部位との質量基準の比率(C/A比)が、30：70～90：10である請求項1～4のいずれか1項に記載のブロックポリマー。

【請求項6】

前記ブロックポリマーの重量平均分子量(Mw)が、12000以上60000以下である請求項1～5のいずれか1項に記載のブロックポリマー。

【請求項7】

前記ビニルポリマー部位の重量平均分子量(Mw)が、3000以上30000以下である請求項1～6のいずれか1項に記載のブロックポリマー。

【請求項8】

請求項1～7のいずれか1項に記載のブロックポリマーを含む可塑剤。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

本発明者らは、前記した従来技術の課題を解決すべく鋭意検討した結果、特定のブロックポリマーを可塑剤として使用することで樹脂組成物、特にポリスチレン系やポリエステル系などの芳香環含有樹脂組成物の成形性および成形物の耐熱性が両立できることを見出して、本発明に至った。

本発明は、脂肪族ポリエステル部位、および芳香族ビニルモノマーを含むビニルモノマーの重合体であるビニルポリマー部位を有するブロックポリマーであって、該ブロックポリマーが融点を持ち、該脂肪族ポリエステル部位が側鎖にアルキル基および/またはアルケニル基を有することを特徴とするブロックポリマーに関する。